作者プロフィール
柚木 文夫氏　千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

丹沢　仏果山－ミニ山脈縦走－

仏果山のミニ山脈(半原バス停から)

11 月中旬、丹沢・仏果山（747m）に出かけた。定例の古い山仲間との懇親山行である。丹沢山系の東端にあって、高取山、仏果山、経ヶ岳と続くミニ山脈は、そろそろ体力に限界を感ずるＯＢ諸氏にとって手頃なミニ縦走コースである。

前夜の半原の宿での宴会は、猪鍋をつつきながら、例によって年甲斐もない痛飲。

翌朝９時、宿の主人に「愛川ふれあいの村」西側の高取山登山口まで、車で送ってもらった。幸先の良い 30 分の大儲け。

木段がよく整備された見晴らしのない林の中の登り道。所々に鹿除けフェンスがあり、その度に扉の開閉を繰り返す。30 分程で見晴らしの良いベンチに出て一休みした。二日酔いの頭に涼風が心地良かった。

更に林の中の急登に汗を流して、10 時 15 分高取山山頂に到着した。山頂には 10m 程の高さの展望塔が設けられ、青く光る宮ヶ瀬湖の向こうに丹沢主脈の山並みが広がる。振り返れば半原の家並みから相模平野、遠く東京のビル群が霞んで見えた。

高取山から稜線を仏果山へと向かう。雑木の中のアップダウンを繰り返し、11 時仏果山に到着。この山頂にも立派な展望塔があり、眺望は高取山に劣らずと言いたいところだが、もう昼近く、モヤが上がってきて遠望は今一だった。

見下ろす宮ヶ瀬湖

仏果山山頂

高取山から望む仏果山

仏果山から経ヶ岳に向かう稜線は岩石の露出したヤセ尾根の連続でちょっとしたアルペン気分が味わえ、往年の山男諸氏もご機嫌の面持ちだった。しかしそれも 20 分程で終わり、後は雑木林の中の見通しのない尾根道歩きとなった。12 時、半原越近く、展望板のある日当たりの良い草地に出て、昼食休憩にした。ここで幹事としては、半原越に荷をデポして軽装での経ヶ岳往復を提案してみたが、全員から即、却下された。「花より団子」ならぬ「山より温泉」である。半原越の手前から稜線を外れて西に下り、13 時半、「リッチランド」の湯に到着し、風呂とビールの定番となった。

リッチランドの湯